



## 申1号磐越西線で発生した事象を踏まえた安全 安定運行を求める緊急申し入れ団交報告

11月2日申1号団体交渉を行いました。8月4日に発生した磐越西線東下条～五十島駅間においてレール締結装置が16カ所外れていた事象について原因究明と再発防止を求めました。

### 1. 今回発生した事象について原因・背後要因を明らかにすること。

回答. 本事象は、列車の走行による繰り返し荷重により、締結装置が脱落したものと推定される。

(組合) 会社資料では15カ所であるが我々からすれば異常であると捉えるが。

(会社) 検査等も行ってた中で外れてしまった。15カ所がどのタイミングで脱落したかはつかめていない。検査直後に脱落したのであろうと思う。

(組合) 「マクラギ検査6月3日夜締結装置不良あり」とあるが、その時に治したのか。

(会社) 3カ所連続で不良があったわけではなく、この段階では早急に補修は行っていない。

(組合) 修繕するようにパートナー会社から連絡はなかったのか。

(会社) パートナー会社は検査結果をJRに報告する。結果を受けてJRが判断する。報告を受けて即修繕は考えていなかった。次年度の交換計画に組み込むか考えていた。放置していたわけではなく即修繕が必要ではないという判断。

(組合) このような状態になっているのが分かっていたのに8月4日は列車を止めてまで修繕したのか。危機管理上の判断ではなかったのか。

(会社) 主幹が保線技術センターであり現地を確認するまでは抑止をかけて安全を確保する方針をとった。

(組合) 修繕費がなくて優先順位が遅れるということはあるのか。

(会社) 安全を脅かすような費用削減はしない。

### 2. 今回の事象から得た教訓及び再発防止策を明らかにすること。

回答. 当該線区の緊急点検を実施し、類似箇所が無いことを確認している。また、線路管理の重要性について教育を行ったところである。

(組合) 直した方が良く正しく報告したパートナー会社に何の教育をしたのか。

(会社) 緊急性があれば写真等を使用してJR側で判断しやすい様に再周知を行った。

(組合) 初めに報告があった時に脱線の危険性は無いと判断したが、不具合があればしっかり直すことが我々の考える再発防止と捉えるが。

(会社) 放置をしておくことは考えていない。計画的に補修をしていく。

(組合) 3カ所連続で脱落でないから良いと判断したのではないか。2カ所としてはどうか。

(会社) 3カ所ということは判断基準としている。基準を見直すことも一つの考え方である。

(組合) 結論としてJR、パートナー会社双方に直すべき観点はあるということで良いか。

(会社) パートナー会社だけが悪いとは決して思っていない。JRも検査状況の把握を今一度見直した。双方で同種事象の再発防止に取り組んでいく。

## 労働組合の力で安全・安定運行する環境を実現しよう!